



—東地中海地域ニュース—

シリア:中東和平に関するバッシャール・アサド大統領の発言 (7月13日付現地紙報道)

7月12日、パリを訪問したバッシャール大統領によるサルコジ仏大統領、スレイマーン・レバノン大統領、ハマド・カタール首長との4者会談後の共同記者会見での発言（中東和平問題関連のみを抜粋）。

1. 4者会談で協議した中東和平問題は、地域にとって最も重要な問題である。現在、トルコを仲介したシリア・イスラエル間の間接交渉が行なわれている。この交渉の第一の目的はシリア・イスラエル間の信頼回復である。8年間の和平交渉停止とシリア・レバノンに対する度重なる侵攻により、この信頼は今日のところ存在していない。第二の目的は共通基盤の策定であり、これらの条件がそろえば、直接交渉という次の段階に進むことになる。間接交渉では仲介者が必要だが、直接交渉では調停者が必要であり、この旨をサルコジ仏大統領に伝えた。又、和平交渉における米国の役割は基本的なものであるが、欧州、特に仏の役割は必要であり、米国が取って代わることの出来ない役割を持ち、米国と欧州はそれぞれが補完する役割を持っている。自分からサルコジ大統領に直接交渉で仏が役割を果たすことを要請した。

2. (イスラエルとの間接交渉に関する問いに答え、) 第一に間接交渉から直接交渉に移るのは、シリアとイスラエルの真剣さに係っている。これまで3回交渉が行われ、最後の会合が3日前にトルコで原則について協議が行われたが、今のところ完全に合意に達したわけではない。従って現交渉がいつまで続くかを判断することは容易ではない。交渉内容はそう大きいものではない。第二に、我々は米政府の存在の必要性を訴えている。米国の現政権は率直に言って和平交渉に関心を有しておらず、我々は次の政権が発足する6ヶ月後以前に直接交渉を行うことはない。

3. 現在我々は安保理決議の履行、特に67年の占領地からの撤退についての決議242について協議しており、協議しているのはシリアとイスラエルの専門家たちである。自分がイスラエル首相と協議しても、自分もイスラエル首相も専門家ではないので協議できない。協議内容は技術的なものであり、政治ではない。したがって技術的な問題解決に集中し、技術的な問題の共通基盤が出来上がって後、政治的なフォーミュラを議論することが出来る。和平交渉については実現できないことを話しても意味がない。

4. (イスラエルとの和平とは、ゴラン高原からの撤退のためか、占領地からの撤退のためかとの質問に対し、) 重要な質問である。欧州のすべての首脳は和平交渉に関心を持っており、この質問に対する回答を知っておく必要がある。和平合意と合意による和平を区別しなければならない。前者は政府が書面に合意したものであり、後者は国民間の和平の実現である。

シリアにとって和平合意が実現するという事は、ゴラン高原が返還されシリアの権利が回復されれば和平合意に署名することである。しかし同時に我々は常に公正かつ包括的な和平ということ述べている。これにはシリア・トラック、レバノン・トラック、パレスチナ・トラックが含まれ、それぞれのトラックにおいて合意が署名されそれぞれの国民間に和平が実現しなければならない。現在、和平合意が求められているが、和平実現はどのようになされるのか？欧州がシリア・トラックだけではなくレバノン・トラックにも関心を示し、取り組んで欲しい。この点についてはスレイマン大統領も同席する場で議論した。またパレスチナ・トラックも非常に重要である。シリアはパレスチナ人の団結に取り組んでいるが、それが実現しない限りパレスチナ・トラックにおける和平は実現しないからである。